

2 公益財団法人放射線影響研究所の移転について

(厚生労働省・外務省関係)

要望内容

放射線影響研究所の着実な移転及びその機能の更なる発展

(要 旨)

公益財団法人放射線影響研究所（以下「放影研」という。）は、原爆傷害調査委員会（ＡＢＣＣ）を前身として、昭和 22 年に創設されて以来、原子爆弾被爆者の健康管理と医療面の調査研究に大きな役割を果たしております。

この放影研に関しては、

- (1) ＡＢＣＣの比治山への建設に際し、本市は反対したが、占領下で強行されたものであり、移転は全市民的宿願であること。
- (2) 古くから市民に親しまれてきた比治山は、貴重な精神的・文化的財産であり、比治山の環境整備はかねてからの懸案であること。
- (3) 広島市総合健康センター、広島赤十字・原爆病院等との有機的な連携を図るため、これら施設と近接する地域にあることが望ましいこと。
- (4) 建設後 70 年近くが経過し、施設・設備の老朽化が著しく、これまで蓄積された被爆者の貴重な試料（血液）の保存など、今後、現行の機能の維持さえ困難となる可能性があること。

という経緯等があり、比治山からの早期移転が強く望まれております。

さらに本市では、被爆 70 周年の節目に当たる平成 27 年、被爆 100 周年を見据えて目指すべきまちの実現に向けて取り組む「まちづくり先導事業」の一つとして、放影研移転後の跡地利用を含む「比治山公園『平和の丘』構想」をまとめ、平成 29 年 3 月には、「比治山公園『平和の丘』基本計画」を策定し、現在、この計画に基づき、比治山公園再整備に取り組んでいます。

本市においては、昭和 61 年度に、広島大学工学部跡地を移転予定地（7,000 ㎡）として確保しており、放影研においても、平成 4 年度には

「放射線影響研究所基本計画」が策定されるなど移転計画が進められていましたが、米国側の財政上の制約等を理由に、いまだ移転実現には至っておりません。

こうした中、厚生労働省から本市に対し、放影研の移転を実現する方策として、既存の建物を賃借しそこに入居する方法で検討するという考え方が示されたことから、本市は、広島市中区千田町にある広島市総合健康センターを厚生労働省の考え方に適合した最適な候補施設と考え、放影研の移転用スペースを確保するため、平成 28 年 11 月、一般社団法人広島市医師会に対し、広島市総合健康センター内にある広島市医師会臨床検査センターを移転することについて検討いただくよう依頼を行いました。これに対し、平成 29 年 10 月、一般社団法人広島市医師会から、新たに整備する医師会館に臨床検査センターを移転させることにより、放影研の移転に全面的に協力したい、との検討状況の報告がありました。

こうした状況の中、平成 30 年度に、放影研において移転に関する調査が行われ、さらに、令和 2 年度には広島大学霞キャンパスが移転候補先に加わり、移転実現に向けて大きな第一歩を踏み出されたところです。

つきましては、放影研に係る機能の更なる発展に向け、早急に放影研の今後の方向性を決定され、早期に移転を実現していただくよう、格別の御配慮をお願いいたします。

(参 考)

公益財団法人放射線影響研究所の現況

- 1 所在地 広島市南区比治山公園
- 2 敷地面積 2 万 2,716 m²
- 3 建物面積 延 9,233 m²